

令和4年度 学校評価報告書

小樽市立望洋台小学校
校長 及川 年彦

1 本年度の重点目標

『主体的に学び 共に考え たくましい望洋台の子』～「やさしさ」と「つながり」～

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	全国学力・学習状況調査及び標準学力検査の平均正答率全国平均以上または全国平均と同等(±2)	A	全国学力・学習状況調査は国語・算数が全国平均以上、理科が全国平均と同等だった。標準学力検査は3年生が国語・算数が全国平均以上、5年生が国語・算数が全国平均と同等だった。	◎
	特別支援教育の充実	対象となる児童の「個別の指導計画・支援計画」の作成と活用100%	A	対象となる児童の「個別の指導計画・支援計画」の作成と活用100%だった。	◎
	国際理解教育の充実	中学校と連携し、英検を受験する児童延べ15名以上	A	全3回に延べ15名の児童が受験(5級11名、4級4名)した。	◎
	理数教育の充実	児童アンケート「算数の勉強が楽しい・よくわかる」と回答する児童85%以上	A	児童アンケート「算数の勉強が楽しい・よくわかる」と回答した児童85.5%だった。	◎
	情報教育の充実	外部講師を活用した情報モラル教室を年1回以上実施	A	6年生を対象に小樽市情報モラル対策員の藤平氏を講師として実施した。	◎
	キャリア教育の充実	児童アンケート「将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば持っている」と答える児童80%以上	A	児童アンケート「将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば持っている」と答えた児童80.6%だった。	◎
改善方策	○全ての項目で目標を達成した。今後も、研究教科である算数を中心に授業力向上を目指し、児童に必要な資質・能力を確実に身に付けていく。				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート結果から、先生方が子どもたち一人ひとりに丁寧に関わってくれていることがよく分かる。 小学生が英検を受検したり、受検に小学校の教師が関わったりすることはとても良いことである。 携帯の使い方については、家庭のルールづくりが大切である。 				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	保護者アンケート「お子さんは、思いやりを持つなど、豊かな心が育ってきている・どちらかといえば育ってきている」と回答する保護者80%以上	A	保護者アンケート「お子さんは、思いやりを持つなど、豊かな心が育ってきている・どちらかといえば育ってきている」と回答した保護者91.5%だった。	◎
	ふるさと教育の充実	外部講師を活用したふるさと教育年1回以上実施	A	藤間流の方を講師として「潮音頭」を練習したり、学芸員の方をお招きして学校周辺の生き物について学習したりした。	◎
	読書活動の推進	児童アンケート「本を読むのが好き・どちらかといえば好き」と回答する児童70%以上	A	児童アンケート「本を読むのが好き・どちらかといえば好き」と回答した児童は74.3%だった。	◎
	体験活動の推進	社会福祉体験、町内会(PTA活動)、児童会や中学校生徒会との交流などを通じた社会貢献活動を年1回以上実施	A	5・6年生によるアダブデッド・スポーツ体験や、町内会主催の花壇清掃にPTAとして参加した。	◎
	コミュニケーション能力の育成	教員自己評価「子どもたちが自分の考えや思いを伝える場を設定している・どちらかといえば設定している」と回答する教員100%	A	教員自己評価「子どもたちが自分の考えや思いを伝える場を設定している・どちらかといえば設定している」と回答した教員100%だった。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	児童アンケート「仲間はずれやいじめをしないで、楽しく生活している・どちらかといえばしている」と回答する児童80%以上	A	児童アンケート「仲間はずれやいじめをしないで、楽しく生活している・どちらかといえばしている」と回答した児童98.4%だった。	◎
改善方策	○全ての施策項目で目標を達成した。今後は、特に自己肯定感を高める評価を充実させ、児童のよさや可能性を引き出していく。				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が子どもの話をきちんと聞き、悪いところも含めて認めてくれていることが各アンケート結果から分かる。 いじめの防止に関わるアンケートの結果が、目標をはるかに上回っていることはすばらしい。 				

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	シャトルラン15回+(5回×(学年-1))の達成率100%	C	全校で2回の測定期間を設定して実施した結果、達成率は100%とならなかったが、1回目が56%、2回目が61%と増加という結果であった。	○
		食育の推進	知産志食の食育セミナーを年1回実施	A	第6学年で計画通り実施した。	◎
		健康教育の充実	外部講師を活用した薬物乱用防止教室を年1回実施	C	健康教室や薬物乱用防止教室などは、外部講師を活用せず、各担当が指導を行った。	○
改善方針	○縄跳びの活動を全学年で継続するとともに、全校で体育の時間における運動時間の確保(準備運動の工夫や持久力を向上させる取組)を継続して、体力・運動能力の向上を図る。 ○コロナ禍のため外部講師を活用しなかった。今後は、今年度中に保健所や警察などと連絡を取り、健康教室や薬物乱用防止教室の日程を決めて実施する。					
学校関係者評価委員による意見	・地域子ども教室が再開すると、子どもたちが運動する機会がまた増えてくるのではないかと。 ・昨年地域公園の遊具が新しくなって、子どもたちの遊ぶ環境は整ってきている。 ・健康教育は外部講師ではなくても、担当がしっかり指導したのだからCではなくBでよいのではないかと。					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	生活リズムチェックシートを年2回以上の活用	A	夏休み明けと冬休み明けの年2回活用した。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	長期休業中の学習会における「樽っ子学校サポート」事業の年4回以上の活用	A	樽っ子学校サポート事業を活用し、夏季休業と冬季休業でそれぞれ2回実施した。	◎
改善方針	○全ての施策項目で目標を達成した。今後は、特に家庭学習時間(学年×10分+10分)の確保に向けて、より一層家庭との連携を強化していく。					
学校関係者評価委員による意見	・地域の人が関わる樽っ子学校サポート事業は今後も継続してほしい。 ・子どもが地域の人と関わる地域子ども教室を再開してほしい。 ・家庭と連携して、しっかり寝て朝食を食べる習慣を身に付けさせるべきである。					
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中互いの公開研究会への参加100%	A	日課を変更し、互いの公開研究会に全職員が参加した。	◎
		教育環境の整備・充実	教育環境点検を年2回実施	A	年度初めと夏季休業中及び冬季休業中の計3回実施した。	◎
		教職員の資質・能力の向上	人事評価シートに「スキルアップ」に関する自己目標設定100%	A	人事評価シートの学校設定目標に「スキルアップ」に関する自己目標を全職員に記入させた。	◎
		学校運営の改善	保護者アンケートや児童アンケート、職員自己評価を年2回以上実施	A	年間2回実施した。	◎
		学校安全教育の充実	警察・消防等と連携した安全教育(交通安全教室、避難訓練)年2回以上実施	A	低学年の交通安全教室、全学年による避難訓練(火災・地震想定)を年3回実施した。	◎
改善方針	○全ての施策項目で目標を達成した。今後は、特に小中一貫教育のより一層の充実に向けて計画的に部会や授業交流等を行っていく。					
学校関係者評価委員による意見	・子どもを帰せない状況を想定した保護者の引き取り訓練はぜひ実施してほしい。 ・町会の役員で消防署に勤めていた方がいるので、そういう人を講師にして、災害などの際に、どのように対処したらよいのかを学ぶ機会を設定してみてもどうか。					
社会教育に関連する目標(目標6~8)		札幌交響楽団コンサートや芸術鑑賞など、子どもが文化芸術に親しむ機会年1回以上	A	3年ぶりの芸術鑑賞を低高のブロックに分けて実施した。また、6年生が札幌交響楽団コンサートに参加した。	◎	
改善方針	○コロナ禍ではあるが、工夫をしながら文化芸術に親しむ機会を設定できた。今後は、アフターコロナを踏まえ、より一層工夫しながら文化芸術に親しむ機会を充実させていく。					
学校関係者評価委員による意見	・コロナ禍でも子どもたちが芸術に触れる機会があつてよかった。					